

北向（きたむき）地蔵 北長狭通1丁目



夜のネオンがまぶしい三宮・北野坂の一角にあるビルの北壁にお地蔵さんが祀ってある。線香の絶えないこのお地蔵さんは「北向地蔵」と呼ばれており、次のような言い伝えがある。むかし、生田川がまだフラワーロードを流れていた頃、何日も降り続いた雨で生田川の水があふれてしまった。村人は必死で土嚢（どのおう）を積んだが、その土嚢も底をつき、疲れ果てた人々は小屋に帰ってしまった。その時、流木が土手にひっかかり、堤が切れそうになったが、誰も立ち上がれず、小屋のろうそくも消えてしまった。すると、堤の方で何かを引きずっては水に沈める音が聞こえてきた。翌朝、村人が起きてみると、流木がひっかかって堤が切れそう

になっているところに、大きな石が投げ込まれ土手が直されていた。そして、土手の上に見たこともないお地蔵さんがやさしい顔でちょこんとすわっていたのである。村人はこのお地蔵さんが堤を直してくれたと思い、川の西にお堂を建て、切れそうだった堤の方を向けて祭った。これが北向地蔵のはじまりだと言われている。

場所：中央区北長狭通 1-20-12

◆郡界の碑（北長狭通1丁目、北向地蔵隣）

北向地蔵のそばに古い石柱が立っている。その石柱には「八部菟原 両郡界生田川」という文字が刻まれている。昔、旧生田川を境に菟原（うはら）郡と八部（やたべ）郡が分かれていた頃の名残である。もともとは旧生田川の堤防にあったが、いつの頃か北野川沿いに移され、その後、現在の位置に移ったのである。

●「北長狭通（きたながさどおり）」の由来

「活田長峡国（いくたながおのくに）」からとって「長峡通」となるところ、何かの手違いからか、「峡」がよく似た「狭」になってしまい「長狭通」になったという。そして、JR線の北にあるので「北長狭通」としたという。



郡界の碑